

アライグマによるブドウ食害防止対策

利用対象：アライグマによる食害を受けているブドウ栽培農家

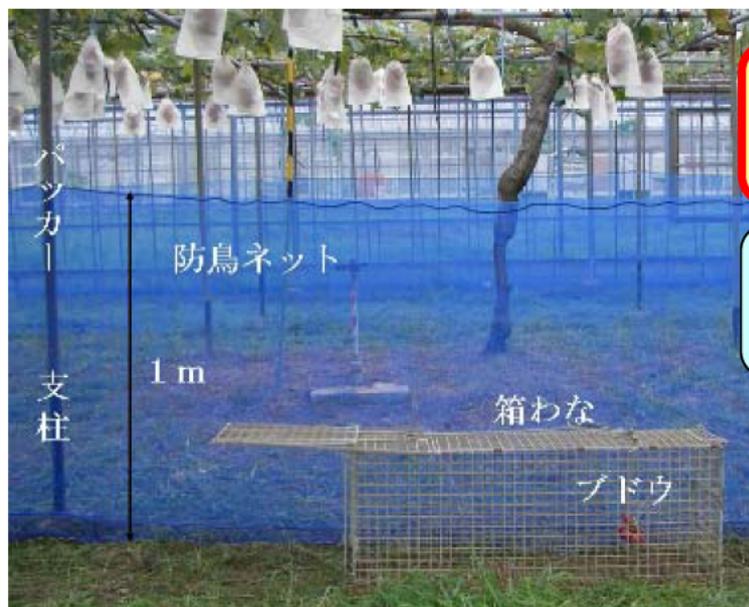


図1 防鳥ネットと箱わな設置方法（ブドウ園の場合）

○防鳥ネットの囲い
+ 囲い外に箱わな設置
→ 園外でアライグマを捕獲

×防鳥ネットの囲いのみ
(箱わな無し)
→ アライグマ侵入 → 食害

アライグマは、まず防鳥ネット外周部の容易に侵入できる場所を探して、歩き回ります。いきなり、ネットを登ったり、かみ破ったりしません。しかし、箱わながなければ、侵入してしまいます。

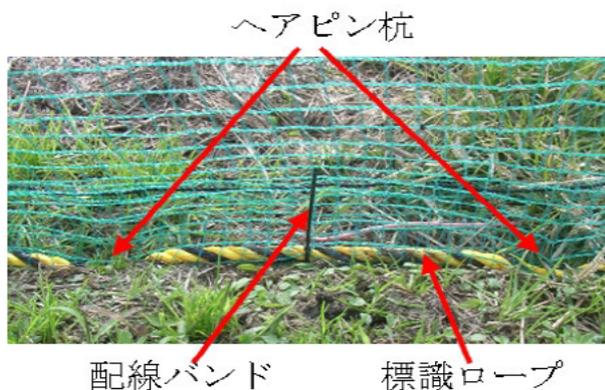


図2 防鳥ネット下部の地面への固定方法

標識ロープと防鳥ネットの結束間隔は10 cm以下とする。

アライグマは直径10 cmの隙間があれば侵入します。

表1 防鳥ネット設置経費（ブドウ園での例：面積44 a、周囲300m）

資材名	規格	単価(円)	数量	金額(円)	備考
1 防鳥ネット	4mm目、幅1m×長さ50m	1,950	6	11,700	
2 標識ロープ	直径9mm×100m	950	3	2,850	
3 ヘアピン杭	長さ20cm	20	1,000	20,000	30cm間隔
4 配線バンド	長さ10cm	1.5	3,000	4,500	10cm間隔
5 パッカー	19mm用	20	150	3,000	ネット上部固定用
合計				42,050 (140円/m)	

注) 設置所要時間は約5分/m

1. 背景とこれまでの課題

三重県伊賀地域では、近年、アライグマによるブドウを中心とした農作物被害が増大しています。アライグマは、木登り能力に優れ、力も強いので、あらゆるところから畑に侵入し、作物を食害します。簡易な防護柵や電気柵では十分に防ぎきれない場合が多く、対策に苦慮しています。

2. 成果の概要

- 1) ブドウ園の外周に高さ1 mの防鳥ネットを張り、上部を支柱等に固定し、下部は標識ロープで固定します。このとき、標識ロープは30 cm間隔に杭で地面に固定し、さらに配線バンドで10 cm間隔に固定します。また、園外の防鳥ネットに沿って、箱わなを設置します(図1、2)。
- 2) アライグマは、まず防鳥ネット外周部の容易に侵入できる場所を探して歩き回ります。いきなり、ネットを登ったり、かみ破ったりしません。周囲を周回している間に箱わなにかかっけてしまいます。
- 3) 防鳥ネットの囲いをせずに箱わなだけを設置した場合や、箱わなを設置せずに防鳥ネットの囲いだけをした場合には、アライグマによる被害を防ぐことはできません。
- 4) 箱わなの設置は、1器よりも複数器設置の方が捕獲効率が高まります。また、箱わなに仕掛ける餌は、ブドウやコーン菓子等の甘い物が適しています。
- 5) ブドウの場合、収穫開始50日前頃から収穫終了時まで防鳥ネットと箱わなを設置すれば被害を防止することができます。
- 6) 防鳥ネット設置の所要時間は5分/m、経費は140円/m程度かかります(表1)。

3. 成果の慣行技術への適合性と経済効果

電気柵よりも安価な資材でアライグマによる食害を防止することができます。

4. 普及上の留意点

- 1) アライグマの有害捕獲は、外来生物法の防除計画に基づき実施するか、鳥獣保護法の許可を受けて行う必要があります。詳しくは、各市町有害鳥獣捕獲許可担当部署へお問い合わせください。
- 2) アライグマは直径10 cmの隙間があれば侵入することができますので、標識ロープと防鳥ネットの結束間隔は10 cm以下にする必要があります。
- 3) 防鳥ネットの地面への固定に標識ロープを利用せずに、鋼管パイプ等を利用したり、土で埋めたりすることもできます。
- 4) ブドウ以外の作物にも利用することができます。

お問い合わせ先	伊賀農業研究室 輪田、後藤 電話：0959-37-0211
参考になる資料	三重県農業研究所のホームページ(研究情報—主要研究成果一覧表) http://www.mate.pref.mie.lg.jp/marc/SEIKA/H22/H22_seika05_araiguma.pdf
研究実施予算	農作物被害を軽減するための包括的な獣害対策技術・手法の確立他(県単)